

2016 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	認知科学研究センター
研究センター長名	総合心理学部 特任教授 東山 篤規

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでわかりやすく記述してください。

1. 研究会

認知科学研究センターでは、2 か月ごとに構成メンバーに外部の有識者を加えた研究会を開いてきた。開催した研究会は次のとおり（所属名を示した演者は外部の有識者）。

1. 2016 年 5 月 27 日 4 時 30 分～ BKC エポック立命 21K, 305
 矢藤優子 「行動計測機器を用いた幼児の認知・社会的行動発達の指標化」
 松村耕平 「自動車内インタラクシヨンのデザイン」
 丸山勝久 「ソフトウェア進化支援におけるプログラム理解活動の可視化」
2. 2016 年 7 月 1 日 4 時 30 分～ 衣笠キャンパス洋々館 6F 第 2 研究会室
 岡本雅史 「情報デザインの認知言語学的アプローチ—情報デザインから関係デザインへ」
 田浦秀幸 「心理言語学研究におけるブレインイメージングデータ」
 大石衡聴 「言語理解過程における一般的認知機能の役割について」
3. 2016 年 9 月 20 日 4 時 30 分～ BKC エポック立命 21, K306
 土田宣明 「運動抑制に影響する要因の年齢差」
 東山篤規 「視覚面の傾斜の異方性」.
 平井慎一 「柔らかい触覚センサ」
4. 2016 年 11 月 21 日（月）5 時～衣笠キャンパス洋洋館 6F 第 1 研究会室
 下江輝（情報理工学部） 「触覚センサによる素材識別に関する研究紹介」
 佐藤克成（奈良女子大学） 「人の知覚特性を利用した温冷感提示手法」
5. 2017 年 1 月 30 日（月）4 時 30 分～BKC エポック立命 21 K306
 島川博光 「生活行動の丁寧さからの高齢者の生活意欲の推定」
 林 勇吾 「異なる視点に基づく人間/人間の協同問題解決：エージェントを用いた実験的検討」
 東山篤規 「鏡の中の空間的広がり」
6. 2017 年 3 月 31 日（金）4 時～(OIC B棟 4 F の研究会室 1
 山本博樹 「授業デザイナーに課された支援的説明の難題」
 春日彩花（大阪大学） 「学習者の「つまずき」の一側面：素朴な概念に着目して」
 北村尊義（情報理工学部） 「続けるための ICT の利用」

2. 講演会・学会などへの支援協賛

1. 2016 年 11 月 22 日（火）に情報理工学部主催の第 26 回イグノーベル章知覚賞受賞の記念講演会（演者：東山篤規，場所：エポック立命 21 エポックホール）が開かれ本センターが協力した。
2. 2017 年 3 月 15 日（水）に本センター主催の特別セミナー「Revising cyclops and his eye」（演者：Hiroshi Ono, York Univ.）を BKC エポック立命 K306 において開催した。

3. その他

立命館大学 OIC 総合研究機構認知科学研究センター内に「力触覚技術応用コンソーシアム」を設置するべく関係方面との調整を重ね、2017 年中に当コンソーシアムを発足させる目途をつけた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2017年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
センター長	東山 篤規	総合心理学部	特任教授
運営委員	北岡 明佳	総合心理学部	教授
	服部 雅史	総合心理学部	教授
	山本 博樹	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	矢藤 優子	総合心理学部	教授
	田中 省作	文学部	教授
	岡本 雅史	文学部	准教授
	林 勇吾	総合心理学部	准教授
	大石 衡聰	総合心理学部	准教授
	田浦 秀幸	言語教育情報研究科	教授
	篠田 博之	情報理工学部	教授
	野間 春生	情報理工学部	教授
	島川 博光	情報理工学部	教授
	高田 秀志	情報理工学部	教授
	丸山 勝久	情報理工学部	教授
松村 耕平	情報理工学部	助教	
平井 慎一	理工学部	教授	
客員協力研究員	多田 美香里	衣笠総合研究機構	客員協力研究員
研究所・センター構成員	計 19 名 (うち学内の若手研究者 計 0 名)		

III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2017年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	北岡 明佳	おぼけトリックアート3 おぼけめいろにチャレンジ	監修	2016年11月	あかね書房	グループ・コロンプス(構成・文)	
2	北岡 明佳	おもしろサイエンス 錯視の科学	単著	2017年1月	日刊工業新聞社		
3	服部 雅史	最新 認知心理学への招待: 心の働きとしくみを探る [改訂版]	共著	2016年10月	サイエンス社	御領 謙・菊地 正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太	
4	服部 雅史	Dual frames in causal reasoning and other types of thinking	分担執筆	2016年10月	Routledge, The thinking mind (N. Galbraith, E. Lucas, & D. Over, Eds.)	Hattori, M., Over, D., Hattori, I., Takahashi, T., & Baratgin, J.	98-114
5	山本 博樹	学校での効果的な援助をめざして	分担執筆	2017年	ナカニシヤ書店	水野治久・家近早苗・石隈利紀(編)	児童生徒の学習支援一教材研究

							の視点からー
6	土田 宣明	よくわかる高齢者心理学	分担執筆	2016年6月	ミネルヴァ書房	佐藤真一・権藤恭之 (編著)	44-45,52-61
7	土田 宣明	認知症ケア用語辞典 精神的ケア他 10項目	分担執筆	2016年11月	ワールドプランニング	土田宣明(分担執筆)	
8	矢藤 優子	『インクルーシブ社会研究』第17号 対人援助の展開—理論・方法・制度の視点から—	共編著	2017年3月	立命館大学人間科学研究所	相澤育郎・矢藤優子 編	
9	島川 博光	線形代数学に基づくデータ分析法	共著	2016年9月	共立出版	原田史子, 島川博光	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	北岡 明佳	錯視について	単著	2016年4月	毛髪科学(117巻)		23-24	
2	北岡 明佳	D. マイヤーズ著, 村上郁也訳 カラー版 マイヤーズ心理学	単著	2016年9月	基礎心理学研究(35巻1号)		11-12	
3	北岡 明佳	顔の美しさ・好ましさ・魅力評価と目の属性の関係	共著	2016年11月	日本顔学会誌(16巻2号)	光廣可奈子・北岡明佳	83-92	
4	服部 雅史	Model fitting data in syllogistic reasoning experiments	単著	2016年10月	Data in Brief(9巻)		850-875	有
5	服部 雅史	Probabilistic representation in syllogistic reasoning: A theory to integrate mental models and heuristics	単著	2016年10月	Cognition(157巻)		296-320	有
6	山本 博樹	高齢者の構造方略ならびに手順説明文の理解に及ぼす標識化効果—MMSE 得点に応じて異なる効果の過程—	共著	2017年3月	立命館文学(652巻)	山本博樹・織田 涼・東山篤規	120-132.	無
7	山本 博樹	説明実践を支える教授・学習研究の動向	単著	2017年3月	教育心理学年報(56巻)			有
8	土田 宣明	ブリコンセンプションから科学的概念への変容過程	共著	2016年6月	教育心理学研究(64巻2号)	春日彩花・土田宣明	184-198	有
9	田中 省作	英文汎化における語の品詞化と構文木の非冗長化	共著	2016年	統計数理研究所共同研究リポート(356号)	渡部孝幸, 田中省作, 宮崎佳典	17-25	
10	田中 省作	コーパスを用いた技術英文書作成支援ツールの開発とその評価	共著	2016年	統計数理研究所共同研究リポート(356号)	宮崎佳典, 戸沢信晴, 田中省作	1-16	
11	岡本 雅史	コミュニケーションの「場」を多層化すること—メタ・コミュニケーション概念の認知語用論的再検討—	単著	2016年9月	社会言語科学(19巻1号)		38-53	有
12	篠田 博之	色覚におけるバリアフリー技術	単著	2016年5月	光学(45巻6号)		231-237	
13	篠田 博之	Experience and training of a first	共著	2016年	International Journal of Affective Engineering(15巻)	Yasuhiro Seya, and Hiroyuki Shinoda		

		person shooter (FPS) game can enhance useful field of view, working memory, and reaction time			3号)			
14	島川 博光	Touch Gesture and Pupil Reaction on Mobile Terminal to Find Occurrences of Interested Items in Web Browsing	共著	2016年	International Journal of Web Engineering(Vol.5 巻 No.1号)	Shohe Ito, Yusuke Kajiwara, Fumiko Harada and Hiromitsu Shimakawa	pp.1-9	
15	島川 博光	Comparison between Touch Gesture and Pupil Reaction to Find Occurrences of Interested Item in Mobile Web Browsing	共著	2016年	International Journal of Latest Research in Engineering and Technology(Vol.2 巻 No.1号)	Shohe Ito, Yusuke Kajiwara, Fumiko Harada and Hiromitsu Shimakawa	pp.37-46	
16	島川 博光	Extraction of Farming Work Rules to Improve Crop Quality with Multiple Regression	共著	2016年	International Journal of Latest Research in Engineering & Technology, (IJLRET)(Vol.2 巻 No.2号)	Sunao Nakanishi, Yusuke Kajiwara, Dinh Dong Phuong, Hiromitsu Shimakawa	pp.10-19	
17	島川 博光	Grasping Motivation and Strategy of Current Students Referring to Past Programming Course	共著	2016年	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials (A)(Vol.136 巻 No.12号)	Dinh Thi Dong Phuong, Hiromitsu Shimakawa	pp.787-796	
18	島川 博光	1次元輝度分布による生活行動の認識およびその丁寧さ判定	共著	2016年	システム制御情報学会論文誌(29巻8号)	島吉 翔太, 岡村 瞬, 梶原 祐輔, 島川 博光	pp.372-381	
19	島川 博光	Recommendation of Tour Route from Tourist Motivation Improving Serendipity Occurrence	共著	2017年2月	International Journal of Latest Research in Engineering & Technology, (IJLRET)(3巻2号)	Momoko Kato, Hiromitsu Shimakawa	26-36	
20	島川 博光	Assessing Posture and Movement of Beginner Farmer with Wearable Sensors	共著	2017年2月	International Journal of Latest Research in Engineering & Technology, (IJLRET)(Vol.3 巻 No.2号)	Riki tatsuta, Dinh Thi Dong Phuong, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa	1-13	
21	高田 秀志	情報共有をとまうアドホックな対面協調作業のための近接端末間方向認識	共著	2017年1月	情報処理学会論文誌(58巻1号)	塩見 和則, 高田 秀志	143-152	有
22	丸山 勝久	Secure Data Storage Architecture on Cloud Environments	共著	2016年7月	11th International Conference on Software Engineering and Applications (ICSOFTEA 2016)	Tran Thi Xuan Trang, Katsuhisa Maruyama	39-47	
23	丸山 勝久	Detecting Invalid Layer Combinations Using Control-Flow Analysis for Android	共著	2016年7月	8th International Workshop on Context-Oriented Programming (COP'16)	Noriyuki Suzuki, Tetsuo Kamina, Katsuhisa Maruyama	27-32	
24	丸山 勝久	Frame-Based Behavior	共著	2017年2月	24th International Conference on Software	Katsuhisa Maruyama, Shinpei	573-574	

		Preservation in Refactoring			Analysis, Evolution, and Reengineering (SANER'17)	Hayashi, Norihiro Yoshida, Eunjong Choi		
25	林 勇吾	Lexical Network Analysis on an Online Explanation Task: Effects of Affect and Embodiment of a Pedagogical Agent	単著	2016年6月	IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences(E99-D 巻6号)	Hayashi, Y.	1455-1461	有
26	林 勇吾	Coordinating knowledge integration with pedagogical agents: Effects of agent gaze gestures and dyad synchronization	単著	2016年6月	Proceeding of the 13th International Conference on Intelligent Tutoring Systems(ITS2016), Lecture Notes in Computer Science, Springer-Verlag)	Hayashi, Y.	254-259	有
27	林 勇吾	Unifying Conflicting Perspectives in Group Activities: Roles of Minority Individuals	共著	2016年8月	Proceedings of the 38th Annual Conference of the Cognitive Science Society(CogSci2016)	Miwa, K.Hayashi, Y.Terai, H.	247-252	有
28	林 勇吾	The effect of "mood": Groupbased collaborative problem solving by taking different perspectives	単著	2016年8月	Proceedings of the 38th Annual Conference of the Cognitive Science Society(CogSci2016)	Hayashi, Y.	818-823	有
29	林 勇吾	Effects of Deformed Embodied Agent during Collaborative Interaction Tasks: Investigation on Subjective Feelings and Emotion	共著	2016年10月	Proceedings of the 4th international conference on Human-Agent Interaction (HAI2016)	Kitamura, A. Hayashi, Y.	235-237	有
30	林 勇吾	傾聴エージェントの実現に向けた傾聴会話参加者の自己評価による数値化モデルの提案	共著	2016年11月	ヒューマンインタフェース学会論文誌(18巻4号)	黄宏軒 澁澤紗優美 林勇吾 川越恭二	373-384	有
31	林 勇吾	Negative electronic word-of-mouth can support product recommendation: experimental investigation	共著	2017年2月	Proceedings of the 20th ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work and Social Computing(CSCW 2017)	Hayashi, Y. Orita, R.Kajiwara, S.	191-194	有
32	林 勇吾	Can AI become reliable source to support human decision making in a court scene?	共著	2017年2月	Proceedings of the 20th ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work and Social Computing(CSCW 2017)	Hayashi, Y. Wakabayashi, K.	195-198	有
33	松村 耕平	Japanese HCI Symposium: Emerging Japanese HCI Research Collection	共著	2016年5月	Proceedings of the 2016 CHI Conference Extended Abstracts on Human Factors in Computing Systems	Kohei Matsumura, Masa Ogata, Saki Sakaguchi, Takashi Ijiri, Takeshi Nishida, Jun Kato, Hiromi Nakamura, Daisuke Sakamoto, Yoshifumi Kitamura		
34	松村 耕平	運動習慣獲得に向けたチームの効果を用いる試み	共著	2016年	生体医工学	鈴木真生, 若尾あすか, 松村耕平, 野間春生, 多田昌裕, 黒田知宏		

35	松村 耕平	Reporting Solo: A Design of Supporting System for Solo Live Reporting	共著	2016年	In proceedings on the 13th Advances in Computer Entertainment Technology Conference	Kohei Matsumura and Yoshinari Takegawa	
36	松村 耕平	ポケレポ GO: ワンマンライブレポートシステム	共著	2016年	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2016)	竹川佳成, 松村耕平, 西村陽菜	

3. 研究発表等						
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名	
1	東山 篤規	枠組みが2次元画像の奥行き感に及ぼす影響	2016年8月	日本視覚学会 2016年夏季大会	下野孝一, 東山篤規, 木原健, Ono Hiroshi	
2	東山 篤規	Apparent depth in glass, bronze, and nickel mirrors: Color effects.	2016年8月	The 39th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	東山篤規・對梨成一	
3	東山 篤規	鏡映世界の距離と奥行: 反射材の効果	2016年11月	関西心理学会第128回大会	東山篤規・對梨成一	
4	北岡 明佳	色関係の錯視について	2016年6月	第41回日本香粧品学会		
5	北岡 明佳	Visual phantoms and perceptual transparency	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)		
6	北岡 明佳	The Bogart illusion inverted	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	Tai, T. and Kitaoka, A.	
7	北岡 明佳	The role of eye characteristics in facial beauty, likability and attractiveness	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	Mitsuhiro, K. and Kitaoka, A	
8	北岡 明佳	(2016). The role of blur in the motion illusion induced by the luminance gradient in stationary images. , Japan, July 27, 2016.	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	Matsushita, S. and Kitaoka, A.	
9	北岡 明佳	Motion illusions in stationary images	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)		
10	北岡 明佳	アイシャドーによる視線方向知覚の変位	2016年8月	日本視覚学会 2016年夏季大会	戴子堯・北岡明佳	
11	北岡 明佳	RGBを原色とする減法混色の並置混色のアルゴリズムとその応用	2016年8月	日本視覚学会 2016年夏季大会		
12	北岡 明佳	錯視のはなし	2016年8月	大津市科学館・科学講演会		
13	北岡 明佳	錯視の不思議な世界ようこそ!	2016年9月	JAGDA Kanagawa トーク&セミナー		
14	北岡 明佳	RGBを原色とする減法混色とCMYを原色とする加法混色	2016年9月	システム視覚科学研究センター・夏のワークショップ		
15	北岡 明佳	錯視と視機能	2016年9月	第27回日本緑内障学会		
16	北岡 明佳	ふしぎでおもしろい錯視の世界	2016年11月	豊川堂企画「本っていいじゃん！」		
17	北岡 明佳	視線方向錯視の知覚における個人差の検討	2017年1月	日本視覚学会 2017年冬季大会	戴子堯・北岡明佳	
18	北岡 明佳	錯視とだまし絵の仕組み	2017年2月	分科会講演会		
19	北岡 明佳	錯視の話題	2017年2月	立命化友会特別企画セミナー		
20	北岡 明佳	並置混色と錯視	2017年3月	第11回錯覚ワークショップ		
21	北岡 明佳	錯視をシステム視覚科学にする試み	2017年3月	シンポジウム「錯視のシステム視覚科学」		

22	北岡 明佳	色依存のフレーザー・ウィルコックス錯視の眼特異性	2017年3月	第50回知覚コロキウム準備委員会	
23	北岡 明佳	シンポジウム "正しい知覚"と錯覚の境界で 指定討論 「恒常性と錯覚」	2017年3月	第50回知覚コロキウム	
24	服部 雅史	文字の非流暢性と記憶成績：個人特製の検討	2016年6月	日本認知心理学会第14回大会	宮川法子・服部雅史
25	服部 雅史	A benefit of “flagging inhibition” in insight problem solving	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology	Nishida, Y., Orita, R., & Hattori, M.
26	服部 雅史	Malleability and durability of implicit attitude: The influence of approach and avoidance behavior	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology	Orita, R., & Hattori, M.
27	服部 雅史	Dual frames in causal reasoning and other types of thinking: An empirical test	2016年8月	The 8th International Conference on Thinking	Hattori, M., & Hattori, I.
28	服部 雅史	考えることの認知科学：思考の意識性と合理性	2016年9月	第3177回立命館土曜講座	
29	服部 雅史	見えない手がかりを意識的努力によって取捨選択できるか：洞察問題解決における閾下プライミングを用いた検討	2016年10月	日本基礎心理学会第35回大会	西田勇樹・織田 涼・服部雅史
30	服部 雅史	Paradoxical relationship between exogenous cues and endogenous activity in insight problem solving: The influence of two types of inhibitory controls.	2017年3月	The 2nd International Convention of Psychological Science	Orita, R., Nishida, Y., & Hattori, M.
31	山本 博樹	Possible support for first year high school students to use structure strategy while comprehending expository text: Processes of the signaling effect depending on their strategy use.	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	
32	山本 博樹	Literacy for healthy aging: The role of comprehending on a healthy-longevity life.	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	H.Yshida, H.Yamamoto, H.Kinjo, Y.Wada, I.Noro, U.Scholz
33	山本 博樹	Possible support for older adults to use structure strategy when comprehending instructions for medical emergency notification services.	2016年7月	31st International Congress of Psychology (ICP2016)	
34	山本 博樹	高校初年次の理解不振を改善する「倫理」教科書のメタテキスト—前提要因による理解終盤での効果の調整—	2016年10月	日本教育心理学会第58回大会	山本博樹・織田涼
35	山本 博樹	高校初年次生の理解不振に対する説明表現の有効性—支援モデルからみた効力観—	2016年10月	日本教育心理学会第58回大会	
36	山本 博樹	学習支援としての説明は本当に有効なのか—説明研究の現在と今後への道標—	2016年10月	日本教育心理学会第58回大会	伊藤貴昭・山本博樹・吉田甫・佐藤浩一・小林寛子・湯澤正通

37	山本 博樹	授業デザイナーに課された支援的説明の難題	2017年3月	立命館大学認知科学研究センター研究会	
38	土田 宣明	運動を抑える手続きの効果—年代差の比較—	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	
39	土田 宣明	The intervention of Wonderful Aging: A program to find the meaning of life	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology	Kusaka, N., Tsuchida, N., Narumoto, J.
40	土田 宣明	Endogenous shift of attention elicited by eye-gaze is related to the decline in frontal lobe function in older adults	2016年7月	The 31st International Congress of Psychology	Kato, C., Tsuchida, N., et al.
41	土田 宣明	The d2-R test: Comparative studies in selective attention between French and Japanese elderlies/students	2017年3月	The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2017	Yato, Y., Hirose, S., Tsuchida, N., Wallon, P., Mesmin, C., & Jobert, M.
42	土田 宣明	運動抑制に影響する要因の年齢差	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会	
43	矢藤 優子	学童期における系列化の発達—円系列課題を用いて—	2016年4月	日本発達心理学会第27回大会	富井 奈菜実・荒木 穂積・矢藤 優子・廣瀬 翔平
44	矢藤 優子	デジタルペンを用いた描画発達検査における描画プロセスの検討：幼児期から学童期の発達の变化に注目して	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	矢藤優子・廣瀬翔平・荒木穂積・富井奈菜実・Philippe Wallon・Claude Mesmin・Matthieu Jobert
45	矢藤 優子	デジタルペンを用いた線描画課題における子どもの行動制御能力の発達の变化の検討	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	廣瀬 翔平・矢藤 優子・荒木 穂積・富井 奈菜実
46	矢藤 優子	Quantitative dynamic analysis of developmental changes in children's drawing activities through the Digital Pen	2016年7月	31st International Congress of Psychology	Yato, Y.
47	矢藤 優子	Relation between self-regulation and social interaction in the youngest class of kindergarten: A short-term longitudinal study.	2016年7月	31st International Congress of Psychology	Hirose, Shohei, Yato, Yuko
48	矢藤 優子	Applicability of French "Palate Education" to Japanese Preschoolers	2016年7月	31st International Congress of Psychology	Yato, Y., & Ito, Y.
49	矢藤 優子	創造性と自己表現・その光と影—教育・支援のありかたといじめ問題—	2016年9月	立命館グローバル・イノベーション研究機構「学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成」主催、立命館大学人間科学研究所「学融的な人間科学の構築プロジェクト」共催シンポジウム	矢藤優子, 荒木穂積, 手良村昭子, 金網知征, 戸田有一
50	矢藤 優子	Interaction Rating Scale: Evaluating caregiver - child relationships through observable behaviours.	2016年9月	British Psychological Society Developmental Psychology Section Annual Conference	Yato, Y.
51	矢藤 優子	縦断研究のこれまでとこれから：科学的根拠に基づく対人援助を目指して	2016年12月	「対人援助の新展開：理論・方法・制度の視点から」	矢藤優子・菅原ますみ・安梅勅江
52	矢藤 優子	「養育者と乳幼児の社会的関係性に関する研究：行動観察、指標開発から縦断研	2016年12月	発達心理学会関西地区懇話会	

		究まで」			
53	矢藤 優子	The D2-R Test: Comparative Studies in Selective Attention between French and Japanese Elderlies/Students	2017年3月	The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences	Yuko Yato, Shohei Hirose, Noriaki Tsuchida, Philippe Wallon, Claude Mesmin, Matthieu Jobert
54	田中 省作	ハイライティングを活用した英語リーディング授業向け CMC システム iBELLEs の開発	2016年8月	第41回教育システム情報学会全国大会	田中省作, 宮崎佳典, 坂本泰伸, 日野友貴, 岡田毅
55	田中 省作	機関リポジトリとトピック分析に基づいた研究者ネットワーク	2016年9月	RA 協議会第2回年次大会	田中省作, 富浦洋一, 上瀧恵理子
56	田浦 秀幸	Two Differing Spotlights on Bilingual Attrition Research - Brain-Imaging and Linguistic Data Analysis	2016年6月	JALT CALL & BRAIN 2016	TAURA, Hideyuki & QIAO, Ting
57	田浦 秀幸	'Japanese-English bilingual' s narrative development compared to L1 English monolingual' s: A case study' as a convener of the colloquium ' The development of the socially non-dominant language: Bilingual narrative analysis from multiple perspectives'	2016年9月	PacSLRF2016	Hideyuki Taura (座長), Mika Akagi, Satomi Mishina-Mori, and Yuri Yujobo
58	田浦 秀幸	"Research Results at Osaka International School" "Longitudinal Brain-Imaging Study"	2016年10月	関西学院大阪インターナショナルスクール招待講演	Hideyuki Taura
59	田浦 秀幸	An fNIRS Case Study Tracking L2 Proficiency Development	2016年10月	The society for functional Near Infrared Spectroscopy 2016 Biennial meeting	Hideyuki Taura and Amanda Taura
60	田浦 秀幸	「バイリンガルの言語接触開始年齢と脳活様態：ブレインイメージング手法による一考察」	2016年11月	ニューサウスウェールズ大学文学部日本語勉強会での招待講演	
61	田浦 秀幸	「バイリンガル脳とバイリンガル子育て」	2017年2月	シドニー日本語土曜日学校での招待講演	
62	田浦 秀幸	「継承語・バイリンガル教育」	2017年2月	シドニー日本語土曜日学校での招待講演	
63	田浦 秀幸	Developmental Narrative Ability in a Bilingual L1' & 'L2 Narrative Development and Brain Connectivity'	2017年3月	Research Seminar at University of Technology, Sydney	
64	田浦 秀幸	「シドニーでのバイカルチャー・バイリンガル教育と子育て」国際交流基金・New South Wales 大学共催「日本語教育シンポジウム」での基調講演	2017年3月	国際交流基金・New South Wales 大学共催「日本語教育シンポジウム」	
65	岡本 雅史	グランド・セオリーなきコミュニケーション研究を補完するものは何か？	2016年8月	電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS&VNV)合同研究会	
66	岡本 雅史	コミュニケーション研究の「語り方」:共有基盤の構築と更新に基づく対話可能性	2016年9月	社会言語科学会第38回研究大会ワークショップ「理論研究再考—理論・モデルは社会言語科学にどう貢献するか？	

		に向けて		一]	
67	岡本 雅史	課題達成対話の基盤化を実現する言語・非言語情報の多重指向性	2016年12月	日本語用論学会第19回年次大会ワークショップ「対話理解と基盤化形成をめぐって:マルチモーダル・インタラクションの多角的検討」	
68	岡本 雅史	怪談の語りにおけるジェスチャー視点の選択	2017年3月	社会言語科学会第39回研究大会	伊田吏佐・岡本雅史
69	大石 衡聴	脳の律動的活動から文処理過程を探る試み	2017年2月	坂本勉記念神経科学研究会 2017	
70	篠田 博之	Vision science and its applications in lighting (invited lecture)	2016年5月	LS15 (15th International Symposium on the Science and Technology of Lighting)	
71	篠田 博之	The effects of luminance and color on vection	2016年5月	ACA2016	Keiko Shiozaki, Yasuhiro Seya and Hiroyuki Shinoda
72	篠田 博之	Lighting for a sense of continuity bryernn real and virtual spaces	2016年5月	ACA2016	Yuto Fushii, Hiroyuki Shinoda and Yasuhiro Seya
73	篠田 博之	Simulating algorithm for dichromatic color apperance using projector lighting	2016年5月	ACA2016	Siqi Sun, Hiroyuki Shinoda and Yasuhiro Seya
74	篠田 博之	Color appearance shift by a surround color for pseudo-cataract observers	2016年5月	ACA2016	Tomohiro Muramoto, Hiroyuki Shinoda and Yasuhiro Seya
75	篠田 博之	物理と心理のはざまから生まれる新しいマーケット	2016年6月	異分野融合勉強会	
76	篠田 博之	テレビゲームによる認知機能への影響	2016年9月	第18回日本感性工学会大会	中川理裕、瀬谷安弘、篠田博之
77	篠田 博之	ベクションにおける輝度と色彩の効果	2016年9月	第18回日本感性工学会大会	塩崎景子、瀬谷安弘、篠田博之
78	篠田 博之	心理物理学による視覚の基礎研究とその産業応用	2016年9月	立命館土曜講座	
79	篠田 博之	視環境と色覚特性に基づく目撃供述鑑定 ～舞鶴事件を例に	2016年10月	第13回法科学研究会	
80	篠田 博之	色彩による空間の明るさ感向上効果における3次元空間知覚の影響	2016年11月	Optics & Photonics Japan 2016	山田翔吾、長谷川真奈、篠田博之、瀬谷安弘
81	篠田 博之	映り込みの空間週数特性がディスプレイの視認性に与える影響	2016年11月	Optics & Photonics Japan 2016	藤本悠介、篠田博之
82	篠田 博之	プロジェクター照明による2色覚シミュレーション	2016年11月	Optics & Photonics Japan 2016	ソンシキ、篠田博之
83	野間 春生	医療機器と病院情報システムを接続する試み	2016年4月	第55回日本生体医工学会大会	江指 未紗, 中野 友裕, 岩尾 友秀, 浦西 友樹, 岡本 和也, 加藤 源太, 齊藤 永, 田村 寛, 野間 春生, 黒田 知宏
84	野間 春生	近接覚・触覚コンボセンサにおける光・ひずみ計測手法の検討	2016年6月	平成28年E部門総合研究会	梅木尚, 野沢 瑛斗, 安部 隆, 奥山 雅則, 野間 春生, 寒川 雅之
85	野間 春生	Texture Characterization Including Warm/cool Feeling by Force, Light, and Temperature Sensitive MEMS Sensor	2016年6月	APCOT2016	Fumiya Sato, Kenta Takahashi, Takashi Abe, Masanori Okuyama, Haruo Nom, Masayuki Sohgawa1
86	野間 春生	スマートマニピュレーション制御のための近接触覚複合MEMSセンサ	2016年6月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2016(ROBOMECH2016)	荒木 凌馬, 安部 隆, 野間 春生, 寒川 雅之
87	野間 春生	VR空間を利用した野球打撃練習システムの開発: 打球軌道の関数化によるシミュレータの改善	2016年6月	電子情報通信学会 マルチメディア・仮想環境基礎研究会 (MVE)	富高 宗一郎, 松村 耕平, Roberto Lopez-Gulliver, 野間春生

88	野間 春生	新生児蘇生法の講習会における受講生の気付きのための新生児蘇生シミュレータの開発	2016年7月	第52回日本周産期・新生児医学界学術集会	魏 亞光, 松村 耕平, 野間 春生, 西澤和子, 岩永 甲午郎, 黒田 知宏
89	野間 春生	ひずみ・光・熱複合センサを用いたマルチモーダル質感計測の基礎検討	2016年9月	第77回応用物理学会秋季学術講演会	高橋 賢太, 佐藤 文哉, 安部 隆, 奥山雅則, 野間 春生, 寒川 雅之
90	野間 春生	ショッピングモールにおける大人と子どもの目的の不一致を解決するためのゲームの提案	2016年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム	伊賀 尚美, 若尾 あすか, 鈴木 真生, 松村 耕平, 野間 春生
91	野間 春生	Evaluation Method of Fabrics by Visual and Tactile Texture Information using MEMS Combo Sensor	2016年10月	IEEE Sensors 2016	Kenta Takahashi, Takashi Abe, Masayuki Sohawa, Masanori Okuyama, Haruo Noma
92	野間 春生	ひずみ・光・熱複合センサを用いた布に対するマルチモーダル質感計測	2016年10月	電気学会 電子・情報・システム部門 知覚情報技術委員会 知覚情報研究会	高橋 賢太, 佐藤 文哉, 志和 昂, 安部隆, 奥山 雅則, 野間 春生, 寒川 雅之
93	野間 春生	近接・接触・滑りを検知できる MEMS 多軸触覚センサを用いた 小型電動マニピュレータ制御	2016年10月	第33回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	荒木 凌馬, 安部 隆, 野間春生, 寒川雅之
94	野間 春生	光・ひずみ複合センサを用いた布の視覚的・触覚的質感評価	2016年10月	第33回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	高橋 賢太, 安部 隆, 奥山 雅則, 野間春生, 寒川 雅之
95	野間 春生	光・力・温度複合 MEMS センサによる冷温感を含む質感の評価	2016年10月	第33回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	佐藤 文哉, 高橋 賢太, 安部 隆, 奥山雅則, 野間 春生, 寒川 雅之
96	野間 春生	近接覚・触覚コンボセンサを用いた周波数変調近接計測	2016年10月	第33回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	梅木 尚, 奥山 雅則, 野間 春生, 安部隆, 寒川 雅之
97	野間 春生	光・多軸力複合 MEMS センサによる多層柔軟物の変色・ひずみ評価	2016年10月	第33回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	阿部 祐太, 安部 隆, 奥山雅則, 野間春生, 寒川 雅之
98	野間 春生	ショッピングモールにおけるグループ来訪者の連続的な気持ちの調査	2016年10月	IPSJ HCI170 & UBI52 共同開催 研究会	若尾 あすか, 松村 耕平, Roberto Lopez-Gulliver, 野間春生
99	野間 春生	災害時における救助者同士の情報共有を支援する SNS の拡張の提案	2016年12月	24th Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2016)	神原 春香, 河合 俊樹, 松村 耕平, 野間 春生, 杉山 治, 下戸 学, 大鶴 繁, 黒田 知宏
100	野間 春生	歩行習慣獲得を支援するシステムの開発に向けたユーザの行動解析	2016年12月	24th Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2016)	大槻 涼, 鈴木 真生, 松村 耕平, 杉山治, 多田 昌裕, 野間 春生, 黒田 知宏
101	野間 春生	勉強会の「運営・参加」を支援するシステム	2016年12月	24th Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2016)	中村 雄哉, 松村 耕平, 野間 春生
102	野間 春生	登場人物に注目した動画内のシーン探索支援システム	2016年12月	24th Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2016)	楢原 雅広, 松村 耕平, 野間 春生
103	野間 春生	リアルタイム実況中継システムにおけるロンバード効果を利用した発話声量の安定化の	2016年12月	24th Workshop on Interactive Systems and Software (WISS 2016)	矢萩 智史, 内藤 拓海, 松村 耕平, 野間 春生
104	野間 春生	ショッピングモールにおけるグループ来訪者にお互いの気持ちの理解を促進するための買い回り行動振り返りの試み	2017年1月	情報処理学会 第171回 ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	若尾 あすか, 松村 耕平, Lopez-Gulliver Robert, 野間 春生
105	野間 春生	歩行の習慣づけにむけた歩数と外的要因の関係性の解析	2017年1月	情報処理学会 第171回 ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	鈴木 真生, 松村 耕平, Lopez-Gulliver Robert, 野間 春生
106	野間 春生	Kinect による姿勢認識を用いた食事姿勢の計測	2017年1月	IEICE PRMU, MVE, IPSJ-CVIM 研究会	史 宇華, 松村 耕平, Roberto Lopez-Gulliver, 野間 春生

107	野間 春生	安価で効果的なシミュレーション教育システムの開発	2017年2月	第19回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム	西本 騰, WEI Yaguang, 松村 耕平, 野間 春生, 岩永 甲午郎, 黒田 知宏
108	野間 春生	ひと触覚を模した人工触覚モデル実現の試み	2017年3月	第18回力触覚の提示と計算研究会	下江 輝, 松村 耕平, 寒川 雅之, 野間 春生
109	野間 春生	仮想環境を利用した遠隔お手前指導の支援	2017年3月	2017年電子情報通信学会総合大会	池田 佳弘, 野間 春生, 田中 弘美
110	野間 春生	視覚・触覚複合 MEMS センサの エラストマ形状による力感度制御	2017年3月	2017 電気学会大会	佐藤 周平, 安部 隆, 野間 春生, 寒川 雅之
111	野間 春生	皮膚組織ひずみ計測のための柔軟物の多層構造と MEMS 多軸力複合センサ出力の相関性評価	2017年3月	電気学会 D 部門・E 部門 研究会 交通・電気鉄道/フィジカルセンサ合同研究会	阿部 祐太, 佐藤 周平, 野間 春生, 安部 隆, 寒川 雅之
112	島川 博光	Assessing Student Motivation and Strategy on the Spot with Non-Negative Matrix Factorization	2016年7月	Proc. of Universal Academic Cluster International Summer Conference in Hokkaido	Dinh Thi Dong Phuing, Hiromitsu Shiamakawa
113	島川 博光	Mood Prediction Reflecting Emotion State to Improve Mental Health	2016年9月	Proc. of International Conference on Advances in Software, Control And Mechanical Engineering (ICSCME 2016)	Shin-ya Yonekura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Simakawa
114	島川 博光	Detecting Dangerous Areas from Preceding Pedestrian Considering Occlusion Problem	2016年9月	Proc. of International Conference on Advances in Software, Control And Mechanical Engineering (ICSCME 2016)	Hiroki Kitamura, Yoshihiro Uemura, Yusuke Kajiwara and Hiromitsu Shimakawa
115	島川 博光	Classifying Novice Programmers from Materials Considering Motivation Factors	2016年9月	Proc. of International Conference on Advances in Software, Control And Mechanical Engineering (ICSCME 2016)	Yoshiharu Yamauchi, Syohei Ito, Dinh Thi Dong Phuong and Hiromitsu Shimakawa
116	島川 博光	Recommendation of Fashion Coordinates Considering TPO and Impression	2016年9月	Proc. of International Conference on Advances in Software, Control And Mechanical Engineering (ICSCME 2016)	Keisuke katsura, Momoko Kato, Hiromitsu Simakawa
117	島川 博光	Estimating Distracted Pedestrian from Deviated Walking Considering Consumption of Working Memory	2016年12月	Proc. of The 2016 International Conference on Computational Science and Computational Intelligence	Yoshihiro Uemura, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa
118	島川 博光	Extracting Foreigner Interest for Japanese Culture from Interactive Digital Contents	2017年2月	Proc. of 6th International Conference on Information and Electronics Engineering (ICIEE 2017)	Thi Ngoc Le, and Hiromitsu Shimakawa
119	島川 博光	Estimating Working Stressor Based on Pulse Wave	2017年2月	Proc. of International Conference on Machine Learning and Computing(ICMLC)	Masayoshi Asano, Yusuke Kajiwara and Hiromitsu Shimakawa
120	島川 博光	Guidance of Farming Works to Improve Efficiency Considering Physical Behavior	2017年2月	International Conference on Machine Learning and Computing(ICMLC)	Riki tatsuta, Dinh Thi Dong Phuong, Yusuke Kajiwara, Hiromitsu Shimakawa
121	高田 秀志	Estimating and Visualizing the position range of a BLE tag	2016年8月	情報処理学会第80回モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究会	Phuc Phan Lac, Ryo Nishide, Hideyuki Takada
122	高田 秀志	Effectiveness of Tabletop Interaction Using Tablet Terminals in a Shared Virtual Workspace	2016年9月	22nd International Conference on Collaboration and Technology (CRIWG 2016)	Naoto Ito, Hideyuki Takada, Ian Piumarta
123	高田 秀志	Collaborative Web Search Using Tablet Terminals on a Virtual Tabletop Environment	2016年9月	The 8th International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech 2016)	Tadashi Inoue, Ian Piumarta, Hideyuki Takada
124	高田 秀志	Building a Content Delivery Network among	2016年11月	The 11th International Conference on Broad-Band Wireless Computing,	Yuki Takeda, Syuhei Yamamoto, Ryo Nishide, Hideyuki Takada

		Tens of Nearby Devices Using Multihop Wireless Communication		Communication and Applications	
125	高田 秀志	Reduction of Network Traffic by Using the Peer Cache Mechanism in Co-located Collaborative Web Search on Smartphones	2016年11月	The 11th International Conference on Broad-Band Wireless Computing, Communication and Applications	Tsuyoshi Donen, Shingo Otsubo, Ryo Nishide, Hideyuki Takada
126	高田 秀志	リアルタイム協調作業環境のためのHTTP/2を用いた同期機構の構築	2017年1月	情報処理学会第100回グループウェアとネットワークサービス研究会	山本修平, 西出亮, 高田秀志
127	高田 秀志	紙媒体を用いた作業の特長を誘発する協調検索支援システム	2017年1月	情報処理学会第100回グループウェアとネットワークサービス研究会	今本恕, 高田秀志
128	高田 秀志	発話を活用した情報共有インタフェースが対面協調作業へ与える効果の検証	2017年3月	インタラクシオン2017	山本卓嗣, 是常雄大, 今本恕, 高田秀志
129	高田 秀志	A Classroom SNS to Develop Creative Thinking Skills in Programming Learning	2017年3月	11th annual International Technology, Education and Development Conference	Kumpei Tsutsui and Hideyuki Takada
130	高田 秀志	タンジブルデバイスによるグループ形成機能を持つ情報共有環境	2017年3月	情報処理学会第101回グループウェアとネットワークサービス研究会	大坪真悟, 是常雄大, 高田秀志
131	高田 秀志	M2M ネットワークにおけるMQTTを用いた調停機構	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	丸山真治, 山本修平, 西出 亮, 高田秀志
132	高田 秀志	An interactive environment to teach programming based on chain learning	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	Nikolai Shumilin, Ryo Nishide, Ian Piumarta, Hideyuki Takada
133	高田 秀志	Meeting Support Interface Seamlessly Integrating Shared and Individual Workspaces	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	Rim Hajjami, Ryo Nishide, Ian Piumarta, Hideyuki Takada
134	高田 秀志	ユーザ設置ビーコンを用いた通知環境の構築	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	橋本修平, 山本修平, 西出 亮, 高田秀志
135	高田 秀志	プログラミング学習の経験がその後の進路等に与える影響に関するアンケート調査	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	高田秀志, 荒木貴之(武蔵野大学), 小野寺務, 瓜谷輝之(スーパーサイエンスキッズ)
136	高田 秀志	Twitter上の多様な情報を統合利用するための情報ダッシュボードの構築	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会	北田哲也, 高田秀志
137	丸山 勝久	Javaにおける関数型インタフェースの拡張	2016年7月	情報処理学会第193回ソフトウェア工学研究会	三宅阜, 丸山勝久, 紙名哲生
138	丸山 勝久	編集履歴から算出した開発者の関心度に基づくコード補完	2016年9月	日本ソフトウェア科学会第33回大会 [FOSE2-3]	Liao Ziyang, 丸山勝久
139	丸山 勝久	ソースコード編集履歴を用いた競合解決支援ツール	2016年12月	日本ソフトウェア科学会 FOSE2016	西村雄一, 紙名哲生, 丸山勝久
140	松村 耕平	VR空間を利用した野球打撃練習システムの開発-打球軌道の関数化によるシミュレータの改善-	2016年5月	研究報告ヒューマンコンピュータインタラクシオン (HCI)	富高 宗一郎・松村 耕平・Roberto Lopez-Gulliver・野間 春生
141	松村 耕平	ショッピングモールにおけるグループ来訪者の連続的な気持ちの調査	2016年10月	研究報告ヒューマンコンピュータインタラクシオン (HCI)	若尾 あすか・松村 耕平・Roberto Lopez-Gulliver・野間 春生
142	松村 耕平	ポケレポ GO: ワンマンライブレポートシステムの構築	2016年11月	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2016論文集	竹川 佳成・松村 耕平・西村 陽菜
143	松村 耕平	リアルタイム実況中継システムにおけるロンバード効	2016年12月	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ	矢萩 智史・内藤 拓海・松村 耕平・野間 春生

		果を利用した発話声量の安定化の試み		(WISS2016)	
144	松村 耕平	登場人物に注目した動画内のシーン探索支援システム	2016年12月	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2016)	植原 雅広・松村 耕平・野間 春生
145	松村 耕平	勉強会の〔運営・参加〕を支援するシステム	2016年12月	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2016)	中村 雄哉・松村 耕平・野間 春生
146	松村 耕平	災害時における救助者同士の情報共有を支援するSNSの拡張の提案	2016年12月	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2016)	神原 春香・河合 俊樹・松村 耕平・野間 春生・杉山 治・下戸 学・大鶴 繁・黒田 知宏
147	松村 耕平	歩行習慣獲得を支援するシステムの開発に向けたユーザの行動解析	2016年12月	第24回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS2016)	大槻 涼・鈴木 真生・松村 耕平・杉山 治・多田 昌裕・野間 春生・黒田 知宏
148	松村 耕平	Kinect による姿勢認識を用いた食事姿勢の計測	2017年1月	研究報告コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	史 宇華・松村 耕平・Roberto Lopez-Gulliver・野間 春生
149	松村 耕平	歩行の習慣づけにむけた歩数と外的要因の関係性の解析	2017年1月	研究報告ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	鈴木 真生・大槻 涼・若尾 あすか・松村 耕平・杉山 治・多田 昌裕・野間 春生・黒田 知宏
150	松村 耕平	ショッピングモールにおけるグループ来訪者お互いの気持ちの理解を促進するための買い回り行動振り返りの試み	2017年1月	研究報告ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	若尾 あすか・松村 耕平・Roberto Lopez-Gulliver・野間 春生

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	2016年度第1回認知科学研究センター研究会	BKC	2016年5月	12名	
2	2016年度第2回認知科学研究センター研究会	衣笠キャンパス	2016年7月	10名	
3	2016年度第3回認知科学研究センター研究会	BKC	2016年9月	10名	
4	2016年度第4回認知科学研究センター研究会	衣笠キャンパス	2016年11月	12名	
5	2016年度第5回認知科学研究センター研究会	BKC	2017年1月	10名	
6	2016年度第6回認知科学研究センター研究会	OIC	2017年3月	6名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	丸山 勝久	「ソースコード編集履歴を用いた競合解決支援ツール」日本ソフトウェア科学会 FOSE2016 ライブ論文ポスター賞（共同）		2016年12月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	東山 篤規		第26回イグノーベル賞 知覚賞受賞	「光学的・身体的変換視野の効果（股のぞき効果）」に関する研究	2016年9月
2	矢藤 優子	日本発達心理学会	JSDP Award: Keynote for The British Psychological Society, Developmental Section & Social Section Annual Conference	Interaction Rating Scale: Evaluating caregiver - child relationships through observable behaviours.	2016年9月

3	野間 春生	ヒューマンインタフェース学会	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2016 優秀プレゼンテーション賞	ショッピングモールにおける大人と子どもの目的の不一致を解決するためのゲームの提案	2016年9月
4	林 勇吾	KDDI 財団	KDDI 財団審査委員奨励賞	「協同の学習支援活動を支援する対話エージェント」	2017年3月
5	松村 耕平	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2016	優秀プレゼンテーション賞		2016年9月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	東山 篤規	視空間と触空間における直線の平行性と収斂性：ユークリッド空間説の検討	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
2	北岡 明佳	錯視の多面的研究 ―実験心理学・脳機能画像・数理解析・生物学の手法を用いて―	基盤研究(A)	2015年4月	2019年3月	代表
3	服部 雅史	創造的認知の潜在性と意識的コントロール	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
4	山本 博樹	高校初年次生の適応的な説明文読解と支援メカニズムの解明	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
5	土田 宣明	運動抑制に影響する要因の年齢差－エラーの原因は若年者と高齢者で異なるのか？－	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
6	田中 省作	構文変化に基づく日本人学術英語の解明	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
7	田浦 秀幸	表象・アルファベット（日英）バイリンガルの脳賦活様態の解明 fNIRS 研究	基盤研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表
8	田浦 秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語能力発達段階解明 fNIRS 研究	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
9	岡本 雅史	臨床・教育場面におけるトラブル事例の実践分析～帰属バイアスの相互解消に向けて	挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
10	篠田 博之	究極の視覚 UD としてのアダプティブ視環境の創	基盤研究(C)	2015年4月	2017年3月	代表
11	平井 慎一	触知覚センシングにおける軟組織のダイナミクス・トライボロジー	基盤研究(A)	2015年4月	2017年3月	代表
12	島川 博光	農家と消費者を志向で結びつけるサイバー・フィジカル・システム	基盤研究(C)	2015年4月	2017年3月	代表
13	高田 秀志	ビジュアルプログラミング環境を用いた子ども向け協調的帰納学習環境の構築	基盤研究(B)	2016年4月	2020年3月	代表
14	丸山 勝久	フレームベースリファクタリング環境の構築	基盤研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
15	林 勇吾	協同学習におけるエージェントベースのリフレクションに関する総合的検討	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
16	林 勇吾	電子ネットワーク上における集団感情とバイアスに関する総合的検討	基盤研究(C) 特設	2016年7月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	東山 篤規	大気遠近による距離、奥行き、大きさの知覚的变化とそのプロセスの解明	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
2	服部 雅史	因果帰納における認知的非対称性	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
3	服部 雅史	潜在的高次認知のダイナミクス	立命館大学研究高度化推進制度 研究成果国際発信プログラム	2016年10月	2017年3月	代表
4	土田 宣明	対人援助の人間科学(基礎研究)(人間科学研究所)	立命館大学研究高度化推進制度 研究所重点研究プログラム	2016年4月	2017年3月	代表
5	矢藤 優子	子どもの発達とメディアに関する実証的研究:科学的根拠に基づく子育て支援を目的	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表

		指して	型			
6	矢藤 優子	Interaction Rating Scale (かかわり指標) のアメリカ人親子への適用と文化比較	立命館大学研究高度化推進制度 研究成果国際発信プログラム	2016年4月	2017年3月	代表
7	矢藤 優子	学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成	立命館大学研究高度化推進制度 R-GIRO 研究プログラム 第3期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム	2016年7月	2017年3月	代表
8	田中 省作	学術論文の権威性に関する基礎研究	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
9	田浦 秀幸	バイリンガル fNIRS 言語脳科学プロジェクト(国際言語文化研究所)	立命館大学研究高度化推進制度 研究所重点研究プログラム	2016年4月	2017年3月	代表
10	野間 春生	災害発生時の通信回線不通地域における救援用の情報伝達方法の研究	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
11	野間 春生	触知覚的属性を導入した人のように触り心地を認識できる触覚センサモジュールの研究	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
12	高田 秀志	紙媒体の特徴を活かした電子端末インタラクションの創出	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
13	丸山 勝久	Software modernization を目指した対話的プログラム理解支援	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
14	林 勇吾	擬人化エージェントを用いた web ベースによる学習支援システムに関する研究成果の国際発信	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
15	松村 耕平	自動車内会話からの状況に基づいた知識ベースの構築とその流通システムの開発	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
16	松村 耕平	オノマトペによる暗黙的知識の伝達メディアに関する研究	立命館大学研究高度化推進制度 研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表